



善福寺川緑地は約1kmのサクラ並木があります

【維持管理】

- ・巡回点検(毎日)
- ・樹木定期点検(年4回)、樹木診断(要診断木)
- ・枯れ枝処理(安全のため)
- ・周辺樹木の剪定(日当たりを良くするため)
- ・エアレーション(樹勢回復)
- ・施肥(樹勢回復)
- ・支柱設置(安全のため)
- ・伐採
- ・補植

利用による踏み固めにより、締め固まってしまった土壌を『エアレーション』により通気性を高め、樹勢回復を図っています。



ダガーによる空気注入により、土壌の通気性を高め、根張りを良くしています

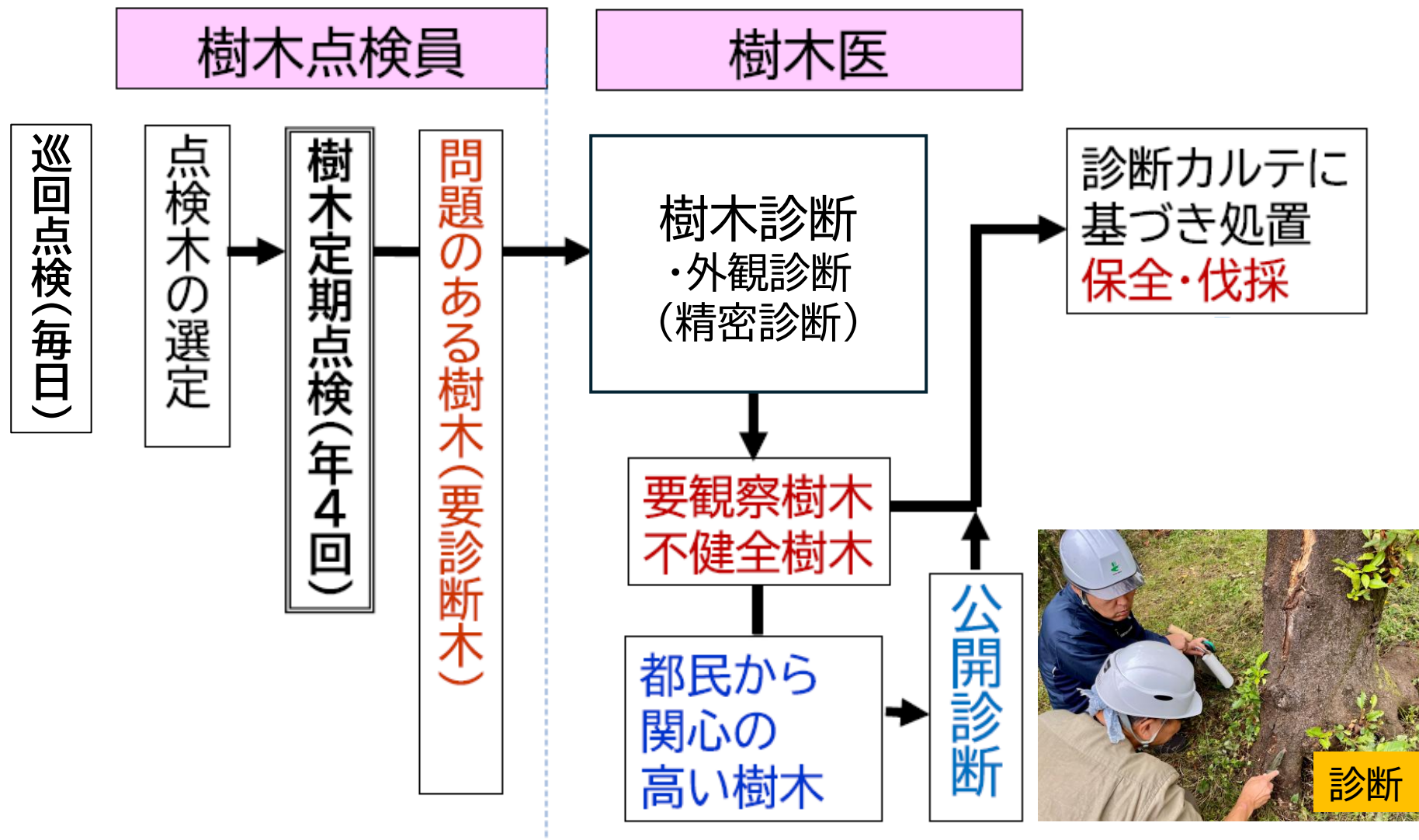


■発根促進措置

穴にパーライトや鹿沼土を注入し、通気性・保水性を高めました。

バーク堆肥、固形肥料等を施し、樹勢の回復を図っています。

樹木点検から樹木診断のフロー



樹木点検の項目

- ・深植え
(鋼棒貫入異常の有無)
- ・空洞、腐朽箇所の有無
- ・打音(空洞箇所)
- ・キノコの有無
- ・幹の地際からの揺れ
- ・幹の傾斜
- ・分岐部の異常の有無
- ・枯れ枝の有無
- ・病害虫
- ・損傷箇所



鋼棒貫入による腐朽の有無を確認



樹勢回復や枯れ枝処理、
点検を行っていましたが、

令和6年9月16日

天王橋のサクラが
倒木しました

【点検、診断】

- ・ 令和6（2024）年9月下旬～10月上旬
樹木点検員による緊急の**樹木点検**および樹木医3名が
外観診断（打診、目視、根元の鋼棒貫入状況を確認）を実施し、
精密診断を要する木を選定しました。
- ・ 令和6年11月12日～令和7年2月28日、**精密診断**（貫入抵抗測定器）
により、4方向の根株の抵抗値を測定しました（129本）。
- ・ 診断した129本中、腐朽空洞率50%以上が57本、30～50%が36本
ありました。
- ・ 樹木医がさらに精査し、総合判定・処置を検討しました。
そのうち、64本について伐採14本・支柱設置46本・軽減剪定4本が必要
となりました。

【今後の対応】

- ・年末までに処理予定
伐採14本、支柱設置25本
- ・年度末までに処理予定
支柱設置21本、軽減剪定4本

⇒2025年11月28日に全て対応完了しました。

支柱を設置した箇所については、木の根への踏圧防止や支柱設置後の経過観察を行うため、当面の間は樹木周辺を囲う措置をしております。